

# キュウリ (ウリ科)

夏すずみ、夏ばやし、四葉

## 1 作業体系

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作業体系		○ 播種	◎ 定植	追肥	収穫	□□□□□□□□				
					○	◎	□□□□□□□□			

## 2 ここがポイント！

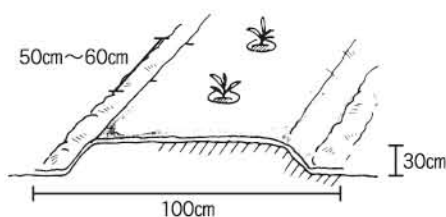
- ・発芽適温は25～30℃、生育適温は昼間25℃前後、夜間15℃程度です。地温に敏感で、適地温は18～20℃で15℃以下では生育が劣ります。
- ・ウリ科の連作を避けます。
- ・根は浅根性で、細根が多く広く張るので、土壌の通気性・保水性を良くすることが大切です。
- ・夏場は収穫期間が2ヶ月程度と短いので、長期収穫するには数回に分けて作ります。

### ① 畑の準備

排水の良い畑を選びます。土作りが大切で、植え付け1ヶ月以上前に完熟堆肥・苦土石灰などを施し、深く耕しておきます。7～10日前までに基肥を施し、幅100cmで高さ30cm程度の畝を作り黒マルチをします。

### ② 育苗・植え付け

直まきも出来ますが、ポットに種まきして育苗した方が、生育が揃い、管理も楽です。本葉3～4枚になったら、株間50～60cmで1条植えとします。4月～5月上旬の育苗はハウス又はトンネル内で行います。



育苗できない場合は、本葉3～4枚くらいまでに市販の苗を購入して育てます。接ぎ木苗（台木はカボチャ）なら土壌病害の心配がありません。



### ③ 支柱立て・誘引・整枝

植え付け後、畝をまたいでキュウリ用の支柱を立てネットを張ります。

5節目以下の子づるは、早いうちに取り除きます。それより上から出た子づるを2～3本残します。それ以外のつるは切除します。子づるから発生する孫づるは着果を確認したら上位1葉を残し摘心します。

#### ④ 追肥

追肥は収穫開始後10～15日ごとに行います。

乾燥すると果実の形や肥大が悪くなるため、こまめなかん水をします。

梅雨明け後、地温の上昇を抑えるため敷き草をします。

### 3 施肥設計

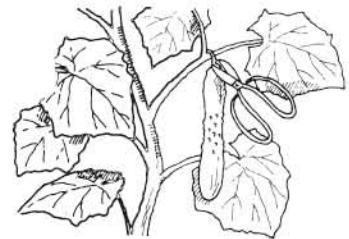
10㎡あたりkg

肥料名 (窒素-リン酸-加里)	基 肥	追 肥	備 考
土力のおかげ堆肥	40～50		
苦土石灰	1.0～1.5		
BM苦土重焼燐 (0-35-0)	0.4		
菜種油粕	1.8		
野菜有機ペレット (10-5-7)	1.0		
野菜燐加安 S540 (15-14-10)		0.6	・追肥は3回に分けて施用します。

### 4 収穫

1番果は大きくしないで早めにとります。その後は、1果100g程度で収穫します。大きくなりすぎると樹が早く弱ります。最盛期には、開花後10～13日で100gになります。

1番果は、大きくしないで早めに収穫します。



### 5 病虫害防除

アブラムシ・ウリバエ等が発生します。

草勢が弱るとベト病やウドンコ病が発生しやすくなります。

炭疽病は種子からの持ち込みが多いので、必ず消毒済みのものを購入します。

### 6 豆知識

キュウリは96%が水分でカロテン、ビタミンCが含まれています。独特の香りと歯触りがあり、食を楽しむ上で重要な野菜です。

	(生)
ビタミンA (カロテン)	330 μg
ビタミンC	14mg
カロリー	14kcal
五訂 日本食品標準分析表より (100gあたり)	